

大会要項

1. 大会名称

2022年度秩父宮杯第69回関東大学アイスホッケー選手権大会

2. 主催

公益財団法人東京都アイスホッケー連盟

3. 協賛

茨城県アイスホッケー連盟 神奈川県アイスホッケー連盟 埼玉県アイスホッケー連盟
千葉県アイスホッケー連盟 栃木県アイスホッケー連盟 山梨県アイスホッケー連盟

4. 後援

公益財団法人日本アイスホッケー連盟 毎日新聞社 スポーツニッポン新聞社

5. 期間

2022年4月9日（土）～

6. 会場

ダイドードリンコアイスアリーナ
〒202-0021 東京都西東京市東伏見3-1-25

7. 大会事務局

公益財団法人東京都アイスホッケー連盟
〒202-0021 東京都西東京市東伏見3-1-25 TEL：042-467-8282 FAX：042-468-2131

8. 表彰式

新型コロナウイルス感染症の影響を鑑み、全体による式典は実施しない。

9. 入場料

一般 1,000円 高校生・中学生・小学生 500円

10. 大会費

参加費 全チーム 42,000円

Aグループ： 2022年4月7日（木）までに指定口座（大会要項16）に振り込むこと。

B・Cグループ： 参加が確定しているチームは、2022年4月7日（木）までに指定口座に振り込むこと。

活動状況によってキャンセルの可能性があるチームは、2022年5月10日（火）を期限とする。

試合費（1試合当たり） 試合数に応じて負担する。

Aグループ： 20分ゲーム 57,500円

B・Cグループ： 15分ゲーム 45,000円

試合費は各グループの大会終了日までに振り込むこと。

参加申し込みを行い、試合日程確定後に辞退する場合は、参加費・試合費を支払うこと。

ただし、新型コロナウイルス感染症の影響により試合中止となり、リンクへの支払いが発生しない場合に限り、その試合費のみチームの負担金はない。

11. 参加チームおよびグループ分け

2020年度関東大学アイスホッケーリーグ戦のランキングにより、1位から14位までをAグループ、15位以下をB・Cグループとする。

ただし、大会参加チーム数によりグループ内チーム数変動することがある。

※新型コロナウイルス感染症の影響により、予告なく対戦方式・試合日程の変更があることをご承知おきください。

12. 大会参加申し込み

指定様式に記載し、電子メール（申込書は必ずExcelデータのまま）で送信すること。

送信先アドレス：univ@tihf.gr.jp

※提出期限

Aグループ： 2022年3月4日（金）まで

B・Cグループ： 2022年4月8日（金）まで

13. 参加資格および登録

※選手および役員は、2022年度の（公財）日本アイスホッケー連盟登録完了済みであること。

（登録料支払い済みを原則とする）

※選手の追加登録

Aグループ： 2022年4月8日（金）まで（振込期限も同日まで）

B・Cグループ： 各校初戦の前日まで（振込期限も同日まで）

上記以降の選手追加登録は認めない。

スタッフの追加登録は、大会期間中であっても随時受け付ける。

選手・スタッフ追加の際は、その都度訂正参加申込書を提出すること。

※選手登録人数がゴールテンダー1名とスケーター5名に満たないチームは、今大会に限り参加資格を失う。

※女子および大学院生は試合への参加資格を持たない。

14. 表彰

各グループ1位、2位、3位を表彰する。

個人表彰は各グループから最優秀選手賞1名を表彰する。

また、Aグループよりベスト6および最優秀新人賞1名を表彰する。

15. 組合せ抽選会

実施しない。

16. 振込口座

銀行名 東京三協信用金庫 東伏見支店（店番016）

口座名 公益財団法人東京都アイスホッケー連盟

普通預金 口座番号 100388

※必ず大学名（登録チーム名）で振り込むこと。

17. 試合映像撮影・配信

本大会では、試合の映像撮影およびその映像配信を行うことがある。

本大会における試合のテレビ・ラジオ放送権、インターネットその他一切の公衆送信を行う権利（公衆送信権）は、

（公財）日本アイスホッケー連盟に帰属することとし、公衆送信権を（公財）東京都アイスホッケー連盟に

許諾することがある。

本大会に参加する全ての選手、スタッフ、競技役員等は、本大会参加中の肖像の管理を

（公財）日本アイスホッケー連盟および（公財）東京都アイスホッケー連盟に委ねることを

本大会参加をもって承諾したこととする。

18. その他

大会参加チームは傷害保険に加入し、保険証券または保険申込者（加入者）がわかる明細のコピーを大会事務局に

必ず提出すること。

※提出期限

Aグループ： 2022年4月9日（土）まで

B・Cグループ： 2022年5月14日（土）まで

競技要項

1. 試合方法

【Aグループ】

対戦表の左側を仮ホームチームとし、本部席から向かって左側のベンチに入ること。

試合でのホームチーム、ビジターチームは、試合前のパックスにて決定する。

- * 1、2回戦までは、トーナメント方式で試合を行う。
- * 2回戦勝利チームは、決勝リーグ戦に臨み最終順位を決定する。
- * 2回戦敗退チームは、5位～8位決定トーナメント戦に臨み最終順位を決定する。
- * 1回戦敗退チームは2つのブロック（E・F）に分かれてリーグ戦を行う。その後、9位～14位決定戦に臨む。
- * 第3ピリオド終了時、同点の場合、両チーム5名ずつのペナルティ・ショット・シュートアウト（PSS）により勝敗を決定する（今大会より両サイドを使用して行う）。

さらに同点の場合は、サドンデス方式による両チーム1名ずつのPSSにより勝敗を決定する。

PSSの先攻・後攻の選択権は、パックスにおいて決定する。

- * ただし、決勝リーグ戦で第3ピリオド終了時同点の場合は、3分間のインターバル後、3 on 3のサドンデス方式による正味5分間の延長ピリオドを行う。

なおかつ同点の場合は、両チーム5名ずつのPSSにより勝敗を決定する。

さらに同点の場合は、サドンデス方式による両チーム1名ずつのPSSにより勝敗を決定する。

【B・Cグループ】

トーナメント方式で試合を行う。敗戦チームによる順位決定戦も実施する。

対戦表の左側を仮ホームチームとし、本部席から向かって左側のベンチに入ること。

試合でのホームチーム、ビジターチームは、試合前のパックスにて決定する。

2. 決勝リーグ・1回戦敗退リーグ戦での勝ち点および順位決定方法について

勝ち点にて最終順位を決定する。

	レギュレーション タイム勝ち	延長・PSS勝ち	延長・PSS負け	レギュレーション タイム負け
勝ち点	3	2	1	0

勝ち点が同点の場合は、下記により順位を決定する。

- ① レギュレーションタイムの勝ち数の多い順
- ② 当該校の対戦成績の勝ち点の大なるもの
- ③ 当該校同士の得点の大なるもの
- ④ 当該校同士の得失点差の大なるもの
- ⑤ 順位決定リーグ内の得点の大なるもの
- ⑥ 順位決定リーグ内の得失点差の大なるもの
- ⑦ 全試合（リーグ戦+トーナメント1試合）での得点の大なるもの
- ⑧ 全試合（リーグ戦+トーナメント1試合）での得失点差の大なるもの
- ⑨ 2020年度ランキング 上位のもの

3. 試合時間

- * 練習終了後、整氷を行う。
- * 練習および試合は、前の試合が終わり次第、順次時間を繰り上げて開始する（最大30分）。

Aグループ： 練習 10分 正味 20分×3P 各ピリオド間インターバル 約12分

B・Cグループ： 練習 7分 正味 15分×3P インターバル 1P-2P間 5分 2P-3P間 約12分

- * 各グループの試合で、10点以上の得点差がついた時点で、次のフェイスオフ以降はランニングタイムとする。

- ① 点差が縮まった場合でもランニングタイムは継続する。
- ② 次の場合は時計を一旦止める。
 - a) 得点時（レフェリーが本部に報告し、電光掲示板入力が確認され次第直ちにスタートする）
 - b) ペナルティ発生時（次のフェイスオフでパックがドロップされた後スタートする）
 - c) タイムアウト（アナウンスと同時に止め、終了ブザーと同時にスタートする）
- ③ ペナルティ時間終了時にプレーが止まっていた場合、ペナルティボックス内の選手は次のフェイスオフでパックがドロップされるまでペナルティボックス内から出てはならない。

4. 競技規則

（公財）東京都アイスホッケー連盟の定めるローカルルールを除いては、原則として国際競技規則ならびに（公財）日本アイスホッケー連盟の定めるローカルルールによるものとする。

5. 補助規則（東京都アイスホッケー連盟が定めるローカルルール）

- 1) 連盟未登録選手が出場した場合、その試合に限り没収試合とし、不戦敗（スコアは0対15）とする。
- 2) オールメンバー表に記載されていない選手は試合に出場できない。
- 3) プレーヤー はバイザーまたはフルフェイスマスクを着用しなければならない。
バイザーは鼻が全て覆われるものでなければならない。
- 4) プレーヤーはマウスガードを着用する（試合中の不正な着用は警告なしにミスコンダクト・ペナルティを科す）。
- 5) 危険な用具を着用している選手は試合に出場できない。
試合前の整列時にレフェリーが両チームのプレーヤーの用具着用状態を確認する。
試合中、正しく防具を着用していないプレーヤーに対しては、警告なしにミスコンダクト・ペナルティを科す。
「お守り」は防具の内側に縫い付けること。それ以外のアクセサリ等の着用は認めない。
なお、これは相手チームからのアピールでは受け付けず、レフェリーの判断によるものとする。
- 6) 練習中については、ゲーム・スーパーバイザー（GSV）がヘルメットやストッキング等の防具を正しく着用するよう監督し、是正させる。
- 7) 試合の際に役員（監督、コーチ等）のうち1名は必ずベンチ入りすること（役員はIDを着用しなければベンチ入りできない）。役員不在の場合は試合放棄とし、不戦敗（スコアは0対15）とする。
役員とは大会要項13のチーム役員登録された者を指す。
※学生は役員として登録することはできない。
- 8) ベンチにはゴールテンダー2名、プレーヤー20名の計22名、役員6名まで入れる。
なお、外国籍を有する選手は3名以内とする。
- 9) タイムアウトは全試合、各チーム1回使用できるものとする。
- 10) オールメンバー表（検温チェック表）、オフィシャル担当表は当連盟所定の用紙に記載し、試合（オフィシャル当番）の当日、入場時に提出すること。
- 11) 試合当日（試合開始時）、試合を遂行するのに必要な最低人数（ゴールテンダー1名とスケーター5名）に満たないチームは、その試合を放棄したものとみなし、不戦敗（スコアは0対15）とする。
- 12) 仮ホームチームは、本部席より向かって左側のベンチに入ること。

- 13) 仮ホームチームはユニフォームの色を選択できる。ただし、対戦する両チームのユニフォームが同系色の場合は、仮ホームチームがユニフォームを変えなければならない。
- 14) ホーム・ビジター制度は、全グループ・全試合において適用する。ホームチームは、試合開始前のパックスにより決定する。その際、仮ホームチームがパックスの表裏を選択できるものとする。
- 15) スティックおよび用具の計測は、1試合につき各チームそれぞれ1回のみ要求できる。
- 16) ピリオド終了時、両チームが同一通路を使用してリンクより控室に戻る場合、同時に移動しないよう出入口に近いベンチのチームから先に速やかに退場すること。
なお、後のチーム（氷上にいる選手）は、一度自チームのベンチに戻り、レフェリーの指示により退場すること。
先のチームが故意に退場を遅らせたり、後のチームが故意に自チームベンチに戻らない場合は、ベンチ・マイナー・ペナルティを科す。
- 17) ベンチドアマンの取り扱い
 - ① 当日の試合に出場しないが選手登録されている学生22名以内をベンチドアマンとして置くことができる。
この場合、オールメンバー表のスタッフ欄に記載すること。ただし、役員6名には含まれない。
 - ② ベンチドアマンは、危険防止のためフルフェイスマスクの付いたヘルメットの着用を義務付ける。
試合前の整列時に、レフェリーがベンチドアマンの用具着用状態を確認し、正しく装備していない場合、その試合のベンチ入りを認めない。この場合、ペナルティ（ベンチ・マイナー）は科せられない。
- 18) 試合中、ベンチ内での写真撮影は禁止する。コーチングの目的にのみ電子機器の使用を認める。
- 19) ベンチ入りする学生スタッフ（マネージャー、トレーナー等）は危険防止のため、フルフェイスマスクの付いたヘルメットの着用を義務付ける。レフェリーが規定に違反している学生を発見した場合、該当者をベンチから退場させる。ただし、ペナルティ（ベンチ・マイナー）は科せられない。
- 20) 第2ピリオド、第3ピリオド開始時は、ファーストセットのみ氷上に上がることを。
- 21) 申請した登録と試合当日の背番号に変更がある際は、オールメンバー表提出時、競技役員（大会運営委員長、GSV、スコアラー等）に報告すること。
- 22) ユニフォームの名前を隠す際は、同系色の布を縫い付けること（原則、テープ使用は不可）。
- 23) ユニフォームの裾は、パンツにしまわず外に出し、できる限りタイダウン・ストラップ（ユニフォームとパンツをつなぐストラップ）でパンツに密着させなければならない。
（今大会は猶予期間とし次回大会より厳密にチェックする）

注意事項

- * 事前の連絡なく、代表者会議、オフィシャルクリニック、表彰式、試合、オフィシャル当番を遅刻、欠席、棄権した場合、また連盟の規約に違反した場合、JHIFリスペクト憲章に反する行為をした場合は、学生事業委員会ならびに審議委員会にて協議し、処分を科す。
- * 試合前練習の際、終了ブザー後にシュートを打った選手は、その試合の出場資格を失う。
- * ペナルティベンチ内では、ペナルティ終了30秒前まで座っていること。また味方への応援を含む一切の私語を禁止する（上記については、レフェリー以外が別途処分を科すことがある）。

特別ルール

<競技要項>

1. 試合時のツバ吐き行為は、いかなる理由があってもゲーム・ミスコンダクト・ペナルティを科す。
一旦口に入れた水等を吐き出す行為もツバを吐く行為と同様にみなす。
2. パックトスは、ソーシャルディスタンスを保ち行うこと。
3. レフェリーその他競技役員との握手は一切行わない。選手同士も禁止する。
4. ベンチ内において、スタッフ（部長、監督、コーチ、トレーナー等）は、飛沫飛散防止のため不織布マスクを着用すること。またドアマンなどベンチ入りする学生は、フルフェイスマスクの中に飛沫飛散防止のため不織布マスクを着用すること。
5. ウォーターボトル、タオルは共有しないこと。

以下の項目は、2020年7月29日にJHIFから発出された通達に準ずる（以下、要約文として記載）。

6. ペナルティアテンダントについて： 得点時は自らドアを開けて出ていくこと。
7. 試合中のベンチ内選手について： 交代選手以外は座っていること。
8. 試合中断時のパックの扱いについて： 中断時にはパックに触れないこと。
ゴールテンダーは、パックをキャッチしたらリンク上に置くこと。

<その他>

- ・ 施設に入る際は、手指消毒を実施し、検温を受けること。
- ・ 施設内において、氷上、ベンチ内以外は常に不織布マスクを着用すること。
(控室など着替え場所およびミーティング場所、トイレ使用の際、ウォームアップ時においても着用すること)
- ・ 指定エリア（控室、着替え場所、トイレ、ウォームアップ場所）以外への立ち入りを禁止する。
- ・ 試合終了後、ベンチ内清掃（アルコール消毒）を行うこと（連盟役員の指示に従って実施）。
- ・ 控室、ベンチ内を除く施設内において、選手の水分（栄養）補給以外は飲食禁止とする。
- ・ ゴミは各チームで持ち帰ること（施設内のゴミ箱は使用不可）。
- ・ 試合終了後30分以内に退場すること。

※新型コロナウイルス感染症防止対策等の社会情勢により、大会期間中であっても内容変更の場合があることをご承知おきください。

<緊急連絡先>

第1連絡先 大会運営委員長 横川（学生事業委員長）

第2連絡先 大会運営副委員長 松本（専務理事）

※携帯電話番号は別途通知